

大館の歴史散歩

峠・坂
里の道 ⑫

天下道

大館市茂内地区から商人留を経て白沢へ連絡する「天下道」という古道がある。しかし、今その道筋を正確に辿ることは非常に困難となっている。今回はこの天下道の復元を試みてみよう。

『郷村史略』商人留村の項に「大茂内より一り半山越北 昔往還也 故に村名とす 天下道と云 奥一り」とあるのが天下道に関する最も古い資料であろう。

『長木郷土読本』茂内村の項には「茂内村は往還にして鎌倉道とて商人留への細道あり」と記されている。

鎌倉時代の主要道の一つに「下の道」と呼ぶ奥州路がある。天下道はこの下の道の延長にあつて津軽北条得宗領とを結び、まさに鎌倉への道であつたと考えられる。

では、この天下道はどこをどう辿つたのであろうか。その手掛りの一つは字名にある。代野地区「天下道」上、「天下道下」がそれで、天下道はこの字界を通つていたと考えるのが妥当ではなからうか。そうすると長木小学校北側から現天下町へ、そして獅子ヶ森南麓へと通じるかつての水田中の農道がそれに該当すると考えられる。

しかし、代野、茂内地区から南への連絡は、東地区を通り大館へなのか、長木川沿いに鹿角へか、不明であるといわなければならぬ。茂内地区の塚ノ下遺跡（広報昭和六十一年五月十六日号参照）の平安時代末期集落跡が、この問題を解く鍵となりそうである。

獅子ヶ森東麓をめぐつて天下道は商人留に至る。乱川上流の商人

留地域は、狭いながらも地形・水流が東から西へ順流し、開発技術が未熟であつた古代大館地方の中で、比較的容易に開発が進められた地域であつたと考えられる。

商人留から北へは城ヶ森の東麓に沿つて白沢字古屋敷へ抜ける。この道筋には釈迦池々底に縄文時代遺跡も確認され、より古い時代相を示す。また古屋敷の一隅には鹿戸野神社が座すが、これは『郷村史略』白沢村の項に「社地 観音 文治五年亀井六郎重清 義経公の供に後れ 髪中に籠めし処の佛鉢を此処に置けり 里人堂を建て産神とす」とある堂と考えられ



▶今後は実線を天下道と想定したが、ほかに破線の道も存在する。

一年間にわたつて大館地方の峠、里道について述べてきましたが、我々の力量の及ばぬことは無論のこと、これまでの研究成果においても不明不詳の点が多々あります。今後一層の研鑽に努めますが、市民の皆さんによつても、この部門の研究がますます推進されることを期待して、今年度の締めくくりとします。

次回からは「火内の山々」を紹介したいと考えています。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

一般書

- ◇関妃暗殺(角田房子) ◇二つの墓標(長尾三郎) ◇カフカの迷宮(後藤明生) ◇湧源国家論(広中平祐) ◇スパイキャッチャー(ポール・グリーングラス) ◇ミステリ亭の献立帖(東理夫) ◇春燈(宮尾登美子) ◇檸檬の街で(松本恭子) ◇閉じられた海図(古川薫) ◇懲りない懲りない面々2(安部譲二) ◇天皇と戦争責任(児島襄) ◇東京のなかの江戸(加太こうじ) ◇新東京百景(山口瞳) ◇軍艦総長・平賀譲(内藤初穂) ◇なみだ壺(村松友視) ◇核ジャック1988(豊田有恒) ◇愛の聖母子(木崎さと子) ◇ことばの命脈(高木護) ◇陸奥宗光(岡崎久彦) ◇活動狂日記(児玉数夫) ほか

児童書

- ◇よみがえる谷(浜田けい子) ◇空とボソーセージと三びきのくま(E・モーザー) ◇十二の星座の恋物語(みづしま志穂) ◇とおい昔の迷をとく 全10巻(たかしよいち) ◇走れ!車いすの犬「花子」(坂井ひろ子) ほか

「昭和幻燈館」
久世光彦著 品文社
名ディレクターとして、数々のテレビドラマを作ってきた著者が心の中に拾い集めてきた「昭和」という時代の——懐えと憧れのしみついた——宝物を綴ったエッセイ集。

3月のテーマ関連図書コーナーは『祝福』です。
親子読み聞かせ会は 毎週金曜日、午後2時30分からです。
中央図書館の休館日は 3月20日、21日、24日です。